

歴史を支配する神

ダニエル書8章

彼は悪知恵をもつて、偽りをその手におこない遂げ、……また君の君たる者に敵するでしょう。しかし、ついに彼は人手によらずに滅ぼされるでしょう。(25)

この章の幻は、バビロンの王、ベルシャザルの治世第三年、バビロンがまだ強力な力を誇っている頃のこと、これから起ころうとしている国々の興亡を預言したものでした。

二本の角を持つ雄羊はメデアとペルシヤの王を表し、次に登場する雄やぎはギリシヤの王を表します。その角が折れて四つの角が現れますが、それらはギリシヤ王アレクサンダー大王の死後に国が四つに分割されたことを意味していると言われます。さらにその国の終わりの頃にはひとりの王が登場し、恐ろしい破壊を行い、有力者たちや神の聖徒たちを滅ぼすと予告されます。この王は紀元前二世紀に登場し、エルサレムを攻め、ユダヤ教を絶滅しようとしたシリヤのアンティオコス・エピファネスを指していると言われます。このように強力な王たちが次々と登場し、世界を我がものとして治めますが、この預言の最後には、「しかし、ついに彼は人手によらずに滅ぼされるでしょう」と告げられます。ダニエル書が訴えようとしていることは、たとえどのような王たちが登場しようとも、世界の歴史は全て神のご支配の中にあることを力強く語っているのです。

真の神を信じるキリスト者は、世の人々には見えないものを見ていく者たちです。すなわち、この世界はわたしたちの主が支配しておられると信じて生きるのです。